

埼玉県指定史跡（平成 27 年（2015） 3 月 13 日指定）

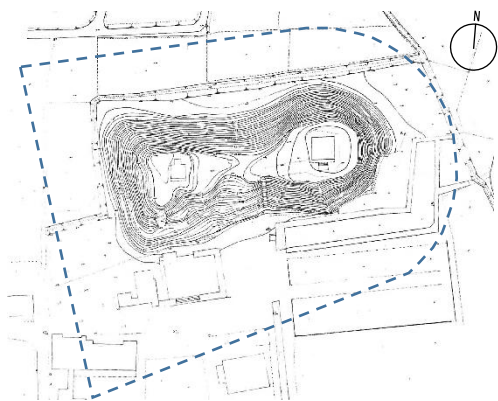
ようめいじこふん

永明寺古墳



永明寺古墳空撮

（平成 28 年（2016）撮影）



墳丘の形と周堀の範囲

永明寺古墳は、埼玉県羽生市下村君にあります。

墳丘の形は前方後円墳で、その大きさは長さ約 78m、高さ約 7m を測ります。

墳丘周辺は、現在、寺院や畑が広がっていますが、近年の発掘調査では、墳丘を巡る堀が地下に埋もれていることが確認されました。

また、造られた時期は、出土遺物から古墳時代後期とされていますが、497 年頃の榛名山の噴火により降った火山灰が墳丘下に堆積していることが確認されており、永明寺古墳が造られた時期は今から 1500 年ほど前の 5 世紀末～6 世紀初頭と推定されています。

現在、永明寺などの史跡地所有者のほか、地域住民が組織した永明寺古墳保存会のご協力でも維持管理が図られています。



発掘された副葬品



昭和6年に後円部墳頂の薬師堂の下が発掘され、埋葬された人物の副葬品と思われる鉄製品の品々が出土しました。

防具（冑・甲）



衝角付冑（正面）



小札甲（一部）

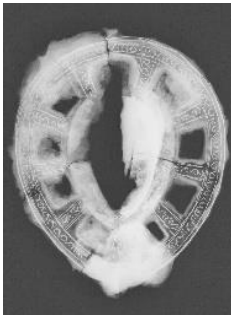


冑(かぶと)は衝角付冑、甲(よろい)は小札甲(こざねよろい)が出土しています。

衝角付冑は剣の力を受け流す機能のある衝角(しょうかく)が前方部についた頭部を守る防具です。鉄板を鋸で留め合わせることで形作られています。

小札甲は何枚もの小さな鉄板(小札)を革紐などでつなぎ合わせてできた胴体や腕・足を守る防具です。

武器（刀・矢）



鍔
(X線写真)



矢尻束

刀は直刀が1振り出土しています。鍔(つば)には象嵌(そうがん：鉄以外の素材を埋め込むことで模様を作り出す技法)による精緻な文様が施されていることがX線写真で確認されました。

矢は矢尻(鏃)が大量に出土しました。

馬具

馬の制御に使われた轡（くつわ）、騎乗者の体を安定させる鐙（あぶみ）のほか、鞍の革紐をつなぐ金具の雲珠（うず）などが出土しています。馬の骨はみつかっていません。



鐙



雲珠

（花形部分が雲珠）



工具

武具や馬具と共に長さ約 18.5cm の鋸（のこぎり）が出土しました。鋸は、国内では古墳時代から現れます。永明寺古墳から出土した鋸については、実際に建築道具として使われていたかどうか不明です。





出土した埴輪



近年の発掘調査により墳丘やその周辺から、埴輪が出土しました。多くは破片ですが、円筒埴輪のほか、人物形埴輪や馬形埴輪など形象埴輪もみられます。現在の墳丘にはその面影はありませんが、かつては埴輪が立ち並んでいたことが窺えます。



武人埴輪の破片
(手甲部分の一部)



円筒埴輪

アクセス

○公共交通

東武伊勢崎線羽生駅より「あいあいバス」(羽生市福祉バス) 井泉・村君ルートむじなもん号「永明寺前」下車すぐ(乗車時間約19分)(土・日・祝日は運休)

○車

東北自動車道羽生ICより約15分

